文部科学省 地(知)の拠点　平成25年度　文部科学省「地(知)の拠点整備事業」

To-Collabo（トコラボ）通信

Tokai university Community linking laboratory

vol. 2

神奈川県・黒岩知事による「白熱教室」を開催しました

学長室公開セミナー「黒岩知事の白熱教室『メッセージ力の高め方』～大学教育に期待するもの～」を、1月27日に湘南校舎の松前記念館講堂で開催しました。東海大学は神奈川県との包括協定締結に向けて現在準備中であり、今回のセミナーはそのキックオフともなる記念すべきイベントです。当日は湘南校舎のほか、札幌、旭川、高輪、代々木、伊勢原、沼津、清水、熊本、阿蘇の各校舎ともテレビ会議システムでつなぎ、合計10校舎で地域住民や学生、教職員など約530人が聴講しました。

セミナーは神奈川県の黒岩祐治知事が講師となり、来場者との対話形式で実施。「一番大切にしている言葉」に関するアンケートをもとにした意見交換と、学生による公開模擬面接を見た上でその改善点などを語り合う２部構成で進められました。黒岩知事はメッセージ力を高めるヒントとして“要するに”という言葉を紹介した上で、「限られた時間の中で自分の思いを相手に伝えるには、あれもこれもと欲張ってはダメ。“要するに”と簡潔にまとめることで、自分の言いたいことを相手にしっかりと聞かせることがポイントです」とアドバイスしました。知事の質問に積極的に答える学生をはじめ、「知事が実際に話している姿を見て、内容だけでなく身ぶり手ぶりも重要だということに気づかされました」「今日学んだことをこれからの就職活動に生かしたい」といった意見も飛び交い、“白熱教室”という名にふさわしい熱気にあふれるセミナーとなりました。

皆さまのいっそうのご協力とご参加を

東海大学の「To-Collaboプログラム」は文部科学省の平成25年度「地(知)の拠点整備事業」の採択を受け、全国に広がる各キャンパスを中心に活動を本格化させております。プログラムの柱となる教育・研究・地域連携のうち、≪教育≫に関してはその核となる「パブリック・アチーブメント型教育」についての調査・研究を実施。昨年12月にはアメリカに視察団を派遣いたしました。1月末には学内で成果報告会を行い、情報の共有にも努めております。さらに2月27日には国内外の識者を招へいし、東京・霞が関の東海大学校友会館でシンポジウムも開催いたします。≪研究≫については、3月6日に今年度の成果報告会を高輪校舎で実施する予定です。また≪地域連携≫においては1月に湘南校舎、2月に札幌、3月には伊勢原校舎にてTo-Collabo市民セミナーを開催。1月27日には、神奈川県との包括協定を視野に入れた黒岩祐治知事による講演会を湘南校舎で実施いたしました。このように着々と進む「To-Collaboプログラム」に、皆さまのいっそうのご協力とご参加をお願いいたします。

東海大学副学長
To-Collabo プログラム運営委員会委員長　**山田清志**

東海大学

2013年度「地域志向教育研究経費」採択研究の紹介

湘南校舎

心理教育相談室を中心とする学校安心・安全メンタルサポートシステムの構築

文学部心理・社会学科／**芳川玲子** 教授

小中学校において、メンタルサポートが必要な事案が増加しています。神奈川県の場合、いじめや自殺などの緊急対応時には教育委員会から臨床心理士が派遣されますが、事態が落ち着くと地域での対処が求められます。しかし、県西地域では対応できる人材が少ないのが現状です。そこで本学の心理教育相談室を中心とした、安心・安全面のメンタルサポートシステムを構築。本学近辺の学校や児童、生徒、保護者に対する支援の拠点にしたいと考えています。内容としては、①情報提供、②直接・間接サポート、③保護者向けセミナーの開催、④学生メンタルサポーターの養成の４つです。特に、多様な事案を見極める目を持った学生の養成が重要だと考えています。

すでに、本学教員が各学校で相談に応じたり、小中学校の教員が湘南校舎で開催するセミナーに参加するなどの連携が進んでいます。また、平塚市や秦野市など５市２町で学校や保護者への調査を実施し、ニーズの把握に努めています。

湘南校舎

地域の高大連携を含む理数系教育活性化に向けた研究

教養学部人間環境学科／**内田晴久** 教授

東海大学は理工系分野の社会へのかかわりを強く意識して学部学科が配置されており、この分野の教育についてこれまでさまざまなノウハウを蓄積してきました。学生グループによる地域の小中高校における理数系教育ボランティアや、秦野市における教育支援学生の活動なども盛んです。本研究では教員や学生による活動を集約し、効果を検証することで地域のニーズに則した理数系教育提供のあり方を検討していくとともに、グループ間の連携を深め、学生の意識向上につなげていく考えです。

具体的には、教員と学生への聞き取り調査を行い、各活動のデータベース化を進めるとともに、３月に自治体の教育関係者や小中高校の教員らにも参加してもらい、学生のデモンストレーションも兼ねた「報告検討会」を開きます。さらに、子どもたちの理数系への関心を喚起するような教具、教材開発も視野に入れており、これらのノウハウを蓄積すると同時に各自治体と共有できるシステムも構築していきます。

阿蘇校舎

阿蘇地域に適した高機能性ヤーコン品種の育成

農学部応用植物科学科／**松田 靖** 准教授

近年、農産物においてもブランド化による流通戦略が実施されています。例えば福岡のイチゴ「あまおう」のように、特定の品種そのものが地域ブランドとして付加価値を生み、その加工製造といった６次産業化が行われるようになりました。

研究材料としたヤーコンは、高機能性食材、健康野菜として知られていますが、日本に導入されたのは1985年。その栽培の歴史は浅く、４品種が栽培品種として登録されているのみです。阿蘇地域に広がる中山間地は原産地である南米アンデス地方と気候条件が似ていることもあり、農学部では2000年からヤーコンの品種改良に取り組んでいます。栽培技術や機能性の分析技術など、これまで培ってきた十分な蓄積をもとに阿蘇地域に適した品種のブランド化を推進。さらに、収穫したヤーコンを材料として製造されるシロップなどの加工品を開発し、新たな価値を生み出すことで、南阿蘇村を中心とした地域農業の発展に貢献したいと考えています。

▶▶▶ Pick Up

地元の企業と連携して シロップの商品化を目指す

ヤーコンの塊根部

ヤーコンは便秘や糖質改善に効果があるフラクトオリゴ糖だけでなく、抗酸化作用のあるポリフェノールや食物繊維を豊富に含んでいます。これまで、学内圃場で栽培したヤーコンを使い、阿蘇校舎内にある農学教育実習場と共同で「粕漬け」や「シロップ」の開発に取り組んできました。その結果、フラクトオリゴ糖を損なうことなく濃縮する技術を完成させています。また、シロップの成分や機能性に関する評価も行っており、市販品よりも高い糖度があることも計測されています。

この加工技術をもとに、約１年前からは熊本の地元企業と連携して商品化に向けた本格的な準備に取りかかっています。今年度中には試作品を完成させ、１、２年後の販売を目指しています。

「To-Collaboプログラム」では地域の活性化や地域への貢献につながる研究に対し、「地域志向教育研究経費」を助成しています。前号に続き今年度採択された19件のうち、今号では6件の研究を紹介します。

高輪校舎

世代を超えた知の共有とサービスラーニング実践プログラムの構築に関する研究

高輪教養教育センター／**福﨑 稔** 教授

港区高輪地区では、学童保育など小学生が下校後に集える場所の減少や住民の高齢化といった課題を抱えています。本研究では、これらの課題解決に向けて港区教育委員会や区が運営する児童館、子ども中高プラザと協力。三者の共同事業として、大学が有する技術や設備といった教育資源を社会に還元し、学生によるサービスラーニング実践プログラム構築を目指します。

小中学生を対象に、キャンパス内に放課後クラスを開設。情報通信学部と高輪教養教育センターの教員が開発してきた、電子回路工作やマイコン応用技術の教育、IT機器による作曲、体育あそびを通した身体づくり指導、英語あそびを利用した英語教育などを学生が指導します。学生が専門分野について他者に伝える能力を養うことを視野に、来年度以降はこの取り組みを授業として開講して受講者を募ります。また区民大学を修了したお年寄りにも参加していただき、キャンパスを「人の集う場所」とし、大学の社会的役割を果たすことを目標としています。

湘南校舎

丹沢山地に分布する県絶滅危惧種シウリザクラの生息状況調査

総合教育センター／**谷 晋** 教授

シウリザクラは本州中部山岳から北海道にかけて分布するサクラの一種で、神奈川県の丹沢山地はその南限にあたります。確認されている総個体は450に満たないため、県の絶滅危惧種Ⅰbに指定されています。このシウリザクラに葉を食いつくすような激害を与えているのが、サクラスガという蛾の幼虫です。丹沢山地では1996年以降に被害が頻発し、たび重なるストレスを受けてきたシウリザクラの枯死が目立つようになりました。2009年までの４年間の大量発生は、幼虫が葉を食い尽し大量餓死することで終息しましたが、昨年にはかなり回復していたため今年は非常に高い確率での激害発生が懸念されます。

シウリザクラの保全は丹沢山地の生物多様性の保全に寄与することから、その分布や樹勢の把握などについて、県とも共同して研究を進めています。北海道では平地にも普通に分布しているので、今後は札幌校舎と協力した現地調査なども視野に入れて研究を進めたいと考えています。

湘南校舎

大学が所蔵する文化財の地域における活用に関する研究

文学部北欧学科／**佐保吉一** 教授

古代エジプトの考古学資料などからなる「鈴木八司コレクション」や、マルティン・ルターなど歴史の教科書にも登場する著名な人物の著書、『源氏物語絵巻』や『伊勢物語絵巻』といった古典など、東海大学には数多くの文化財が所蔵されています。これらの資料は研究に活用されているものの、学内で開く展示会以外では地域住民や学生に開示されていないのが現状です。本研究では、資料をタブレット端末などで擬似的に鑑賞できるシステムを構築し、より多くの人が日常的に閲覧できるようにすることで、大学の持つ文化財を通して地域における地（知）の拠点として貢献することを目指しています。

実施にあたっては、近隣自治体の博物館や美術館、資料館といった文化施設とも連携していきたいと考えています。システムの効果的な開示方法や学校教育で活用する方策を共同で検討し、文化財を使って学生や市民が「知る楽しさ」を体感できるような方法を検討していきたいと思っています。

活動報告

読売巨人軍の原監督と菅野投手が“夢と挑戦”をテーマに語り合う

To-Collabo市民セミナー「Legend～受け継がれる夢、そして挑戦」を、1月8日に湘南校舎2号館大ホールで実施しました。当日は、卒業生でプロ野球・読売ジャイアンツの原辰徳監督（政治経済学部1980年度卒）と、菅野智之投手（体育学部2012年度卒）の対談形式で実施。全国7校舎をテレビ会議システムでつなぎ、地域住民をはじめ学生や教職員など約2200人が聴講しました。

原監督は、「夢を持つことは大事ですが、それを実現させるためには自分を主張するだけでなく、周りの人に感謝することが大切です」と語りかけました。また、菅野投手は「付属相模高校時代に甲子園に出られなかった悔しい思いを励みに、大学で日本一を取ろう、誰からも1番と認められる力をつけてプロを目指そうと思ってやってきました」と、学生時代の夢や挑戦を語りました。

シンポジウム開催

『「パブリック・アチーブメント」型教育の高等教育における可能性』

日本の高等教育における、「パブリック・アチーブメント」型教育の可能性を探るシンポジウムを開催します。当日は東京大学大学院教育学研究科の小玉重夫教授と、アメリカのオーグスバーグ・カレッジのデニス・ドノバン氏が基調講演を行います。なお講演に引き続き、パネルディスカッションも実施します。

日時：2月27日（木）午後1時～4時50分（シンポジウム終了後の5時～6時30分に情報交換会を実施します）／**会場**：東海大学校友会館／**入場料**：無料（定員150人）※情報交換会のみ会費制。申し込み方法など詳細は、To-Collaboプログラムのホームページを参照

To-Collabo市民セミナー〈札幌〉

東海大学公開講座ヒューマンカフェ（道民カレッジ連携講座）「文化ブランド創造」

書店のない地方の町おこしグループと共同して、新しい流通の本屋づくりを試みている株式会社くすみ書房の久住邦晴代表取締役と、東京から札幌へ移って新たな劇団を立ち上げて演劇活動を続ける劇団KYOKU主宰者の滝沢修氏を講師にお迎えします。地域における文化活動を、都市から発信される文化に対する後発的・補完的なものと捉えるのではなく、地域独自のブランドとしての価値観を見いだす活動を展開している両氏の体験を踏まえ、「地域の文化とは何か？」という点についてお話しいただきます。

日時：2月27日（木）午後5時30分～7時／**会場**：紀伊國屋書店札幌本店インナーガーデン／**参加費**：無料（定員100人）／**お申し込み・お問い合わせ**：東海大学公開講座係 ☎011-571-5111（代）

2013年度『地域志向教育研究経費』採択課題の成果報告会

2013年度「地域志向教育研究経費」に採択された19件の研究代表者が、これまでの成果と今後の課題を報告します。

日時：3月6日（木）午後1時～4時／**会場**：東海大学高輪校舎2号館大講義室／**入場料**：無料　※詳細は後日、To-Collaboプログラムのホームページに掲載します

To-Collabo市民セミナー〈伊勢原〉

世界腎臓デー記念公開講座「腎臓の病気を知ろう」

成人の約8人に1人の患者がいると言われており、新たな国民病となっている慢性腎臓病。放置しておくと末期腎不全となって人工透析などが必要になるだけでなく、心臓病や脳卒中などの病気になりやすいことが明らかになっています。この公開講座では、医師をはじめ管理栄養士や薬剤師、臨床検査技師、看護師などさまざまな職種の専門家による、腎臓の働きや腎臓に関する検査・薬、食事管理などの講義を予定しています。

日時：3月15日（土）午後2時～4時（午後1時30分開場）／**会場**：東海大学医学部付属病院、講堂B／**参加費**：無料（事前申し込み不要）／**お問い合わせ**：伊勢原総務課 ☎0463-93-1121（代）

To-Collaboプログラムのホームページがオープンしました

東海大学の新たな地域連携「To-Collaboプログラム」の概要や活動内容などをお知らせするホームページがオープンしました。これから開催予定の講演会情報なども随時掲載していきます。ぜひご覧ください。

ホームページアドレス：https://coc.u-tokai.ac.jp/

リレーエッセイ

地域からの声　大学COC事業の先駆けとして

札幌市南区地域振興課
押見幹生 課長

このたび貴学のCOC事業採択という吉報に触れましたとき、まず頭に浮かんだのが、地域を志向した貴学の取り組みの数々です。ラベンダー栽培日本発祥の地にキャンパスを構える地の利と歴史を生かし、地域とのつながりづくりを目指したラベンダーの植栽とラベンダーコンサートの開催、雪国札幌の高齢世帯に重くのしかかる除雪作業を支援する福祉除雪プロジェクト等々です。

2006年7月、こうした取り組みの種が芽吹き、花を咲かせる契機が訪れました。それは、貴学、南区連合町内会長連絡協議会、札幌市南区の3者が地域連携協定を締結したことです。早々、同年12月には札幌オリンピックの舞台でもあった真駒内公園に歩くスキーコースを開設、今も冬季における地域住民の健康づくりに寄与しています。また翌年7月には地元の連合町内会やまちづくり協議会との協働で、記念すべき第1回南沢ラベンターまつりを開催。大学と地域の連携事業として、今ではしっかり地域に定着しています。

こうした貴学のさまざまな取り組みを振り返ったとき、それはまさに大学COC事業の先駆けであったと、認識をあらたにしているところです。

これからも南区さらには札幌市の「地（知）の拠点」として、地域コミュニティの果実がより多く実りますよう大いに期待しています。

文部科学省　平成25年度「地（知）の拠点整備事業」採択「To-Collaboプログラムによる全国連動型地域連携の提案」

全国にキャンパスを有する大学ならではの「全国連動型地域連携活動」を柱に、地域特有の問題や共通課題を各校舎の学部、学生、研究者が共有し協力して解決策を見いだす取り組みです。To-Collabo（トコラボ）とはTokai university Community linking laboratoryの略称で、北海道から九州まで日本全国に広がる総合大学の高等教育拠点である東海大学（Tokai University）を生かした地域連携の教育と研究および研究所（Community linking laboratory）を示しています。

『To-Collabo通信』vol.2（2014年2月号）

発行：東海大学学長室To-Collabo推進準備室　URL：https://coc.u-tokai.ac.jp/
〒259-1292　神奈川県平塚市北金目四丁目1番1号
TEL：0463-58-1211（代表）内線2364／FAX：0463-50-2034／E-mail：coc@tsc.u-tokai.ac.jp

東海大学が育てる「4つの力」
「自ら考える力」「集いカ」
「挑み力」「成し遂げ力」
イメージキャラクター　リッキー